



東京金山会通信 No.57

令和6年 新年のご挨拶



◀こちらから東京金山会のページにアクセスできます



▲東京金山会 会長 高橋 和雄

新年のご挨拶を申し上げます。日頃は東京金山会の行事にご協力をいただき、ありがとうございます。昨年の東京金山会総会に、佐藤 英司町長、栗田 保則議長、町から大勢の参加者をいただき、関係者一同、嬉しく思っております。今年も東京金山会設立65回の節目の総会にあたります。記念にふさわしい催し物を、関係者のみなんで考えていきたいと思っております。また、今年も辰年であります。この年の特徴としては大きな出来事が多く、2000年の2000円札発行・青函トンネル開業、1988年 瀬戸大橋開業、1964年 東京五輪開催など、思い出に残る年でした。金山町におかれましても、町制施行100周年の記念の年になるそうですね。東京金山会としても、何かお手伝いが出来ればと考えております。今年もどうか良い年でありますように、お祈りしております。

第20回 最上地域ふるさと連合会総会

さる令和5年11月25日(土)、アートホテル日暮里ラングウッドで最上地域ふるさと連合会総会が開催されました。参加者は、最上地域の各市町村のふるさと会を中心に計111名。東京金山会からは11名が出席、金山町から来賓として佐藤町長、栗田議長が出席されました。本総会は20回の記念総会とのことで、懇親会も盛大に開催され、また多くの方と交流をすることができました。記念総会という点では、次回65回の節目を迎える金山会としても、参考になる点がありました。今年の総会の企画へ活かしていければと思います。



【問合せ】 東京金山会 広報担当 藤山善夫 ☎080-5525-0435 mail : fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp

No.215

森の子ども図書



じゅうにしの はなしのつづき

スギヤマカナヨ
ひかりのくに

会議の日、色々な動物が集まって大騒ぎ。ネコから提案があるらしい。それは、十二支のメンバーを新しくすること！十二支たちはびっくり。これまで神様から年を守る役目をいただいていたのに。次の候補が決まっています、ライオンやクジラやパンダが並び、対決がはじまる。するとどこからか声が聞こえてきました。その声とは？

交流サロンポスト

月～金 12時30分～17時30分まで
※12・1・2月は17時閉館
※祝・盆・正月は休み



※()内作者名

◀今月は8冊！▶

椿ノ恋文(小川糸) / 星を編む(風良ゆう) / さやかに星はきらめき(村山早紀) / あたらしい家中華 手軽あっさり毎日食べたい(酒徒)・・・他4冊

図書室だより



黒窓ぎわの トットちゃん

黒柳徹子 / 講談社

1981年に刊行された国民的ベストセラー待望の42年ぶりの続編。前回は、東京大空襲の数日後の青森に疎開に旅立つ場面が終わってしま。作者は「前回よりおもしろいことは書けない」と思っていました。トモ工芸園時代の「それから」を知りたいと思っている人が多いと知って執筆したそうです。



ギネス世界記録 2024

クレイグ・グレンディ編集 / KADOKAWA

今年の世界記録は、水！海！地球！世界中から集めた最上級の記録の数々を、型破りなビジュアルで紹介。日本版オリジナルページにも、たくさんのお偉業を成した個人・団体が紹介されています。そして、あのミュージシャンが「6つの年代連続で、アルバム1位」獲得！そのインタビューも掲載されています。

図書コーナー … 金山町中央公民館内 9:00 ~ 17:00

ふんげい

金山杉俳句会報 第四八二回

冬支度急かす鳥海山鈴色
戦争を伝えるニュース崩れ梁

星川 キエ子

野も山も私を抱き秋の彩
熟れ尽きて押す秋風の日暮道

岸 昭子

秋霧にばやけし光街路灯
狂ひ咲き菜の花咲きし我が畑に

高橋 洋子

黄葉舞二礼二拍手神の橋
子らの夢回して見せる木の実独楽

鶴沼 よし子

仏前に手向けし菊の香る朝
街路樹の葉みな落ちて空明かし

阿部 一代

山茶花の紅を離さぬ日暮雲
湯豆腐の蘊蓄聴きつ稗酒

栗田 弥超

かねやま紅風会

豊穣に笑みの零れる今年米
短日の仏間を飾る菊の花
茶飲会笑顔も満つる秋日和

荒屋 阿部 勝子

荒波を横目に冬の日本海
小春日の摘菜を急ぐ一日かな
葉牡丹の紅ひ染むる冬の声

荒屋 関 喜美子

おでん煮る具たくさん鍋料理
玄関の戸口狭しと花八手
暮早く勤め帰りの急ぎ足

菅越 庄司 けみ子

雨に濡れ落ちて色増す冬紅葉
晩秋の心温める日暮空
世の汚れ全て秘すなり冬の霧

七日町 青柳 キエ子

黒雲の不気味に集ふ冬鴉
老の身に冷たき風の師走空
出羽の里衣まとひて山眠る

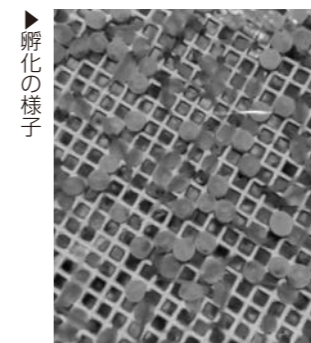
上台 阿部 一步

地域おこし協力隊 池田 達哉

新年あけましておめでとうございます!!

金山町 地域おこし協力隊

有屋の「いわなや」を、事業承継する活動をしております協力隊の池田です。
今月のコラムは、昨秋に行った金やまめと神室イワナの採卵と受精卵飼育について報告します。当養魚場では、10月中旬頃よりやまめの採卵を開始して、11月よりイワナの採卵を行っております。親になる魚たちは、秋口には、体に婚姻色が表れ始め、特に雌魚は、お腹が、大きく膨らみ、卵を持っていることが明らかにわかるほどに、成長します。
その頃より、養魚場では、3日1度のペースで、雌魚の卵の状態が受精にベストなタイミングを計るために「熟度鑑別」を行います。それを経て、雄魚より採精を行い、受精卵を作ります。その受精卵は、その後、神室山の沢水を引き込んだ、孵化箱の暗室にて、穏やかな水量で育ちます。およそ積算温度130度を迎えるころには、心臓血管が太く見え始め、170度を迎えるころには、ハッキリとした眼が確認できるようになります(発眼卵といひ、出荷対象となります)。さらに、220度を迎えるころには、始めは薄黄色をしていた受精卵は、ほんのりピンク色に変化し、260度



▶孵化の様子



日々の活動は、Instagramで配信中です。ぜひ、フォローのほどよろしくお願ひします。

を迎えるころには、魚の眼や体は、ピクピク小刻みに動くようになってきます。こうして、300度(受精からおよそ1か月以上)を迎えると、成長の早い魚から、徐々に孵化します。この後、魚達は、さらに積算温度300度を迎えるころ、おそろしく、広報かねやま1月号が皆様のもとに届くころには、卵黄をほぼ吸収し終わり、体重0.1グラムほどになりエサ付けを開始しているころです！
金山町に赴任して、早いもので1年が経ちました。今年も張り切っていきたいと思ひます。